

小谷 元子講師

(理化学研究所・領域総括)

談話会	9月14日(月) 16:00 ~ 17:00 「離散幾何解析—離散と連続をどうつなぐか」 幾何解析の離散版である離散幾何解析であるが、特に、離散と連続をつなぐためのスケール変換極限に焦点をあてる。また、物質科学への応用について紹介する。
講義 期間 ・ 題目 ・ 内容	9月14日(月)~9月16日(水) 14日: 10:00-12:00 15日: 9:00-12:00, 13:00-15:00 16日: 9:00-12:00, 13:00-15:00 「離散幾何解析学入門」 20世紀後半「幾何解析」により大域的な図形の形を理解することが可能になり、幾何学は大きく発展した。21世紀には、幾何学の興味の対象が広がり、距離・測度空間や離散的な対象物に対して、「幾何解析」を展開する研究が活発化してきた。幾何解析の離散化として開拓された「離散幾何解析」、グラフに測度距離空間としての構造を入れた幾何解析、の基礎を理解する。また、低次元の離散構造に隠れた連続的な曲面を取り出す「離散曲面理論」の基礎を学び、離散的な幾何量が古典的な幾何量に収束することを理解する。
会場	川井ホール